

令和 7 年度 県立鉾田第一高等学校自己評価表

| | | | |
|--|---|--|--|
| 目指す生徒像 | 高い知性、たくましい気力、礼節を重んじる人間性を備えた生徒 グローバルな視点と行動力をもった生徒 | | |
| 三つの方針 | 具体的目標 | | |
| 「三つの方針」 (スクール・ポリシー) | 「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー) | ①グローバルな視点を持ち、国内外の各分野のリーダーとして未来を牽引できる人財の育成 ②地域社会の発展に核となって貢献できる人財の育成 ③高い知性、たくましい気力、礼節を重んじる人間性を備え社会に貢献できる人財の育成 <本校生の未来の例> ㉑公的な機関で社会を支える。㉒医療従事者として社会を支える。㉓起業して社会を支える。㉔企業内のリーダーとして社会を支える。 | |
| | 「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー) | ①生徒一人ひとりの多様な学習ニーズに対応する。 ②生徒の主体的な学習活動、探究活動を重視する。 ③未来を牽引するための進路実現に向けた高度な学力を身につけさせる。 (理工・医療・社会科学の分野のカリキュラム・マネジメントの充実やプロジェクトの実施) | |
| | 「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー) | ①様々な分野に興味をもち、主体的に探究しようという意欲のある生徒 ②課題を見いだし、主体的な探究によりその諸課題を解決しようと努める生徒 ③他者と協働し、目標の実現に向けて、壁を乗り越え、日々努力する生徒 | |
| 昨年度の成果と課題 | 重点項目 | 重点目標 | 達成状況 |
| 日々の授業や計画的な小テスト・家庭学習用の課題等の実施により、基礎的基本的な知識・技能の定着は見られた。しかし、課題解決的な学習には課題が残る。家庭学習時間においても、目標まで各年次 1 時間程度足りない状況である。授業の中で適宜 ICT を有効活用し、生徒の学習における ICT 活用意識は高まっている。しかし ICT 人材育成に繋がる指導については、体制を検討している段階である。個別最適化された学習支援の充実を図り、家庭学習時間の増加に繋げたい。 大学入試全般に安全志向が見られ、学校推薦型選抜や総合型選抜で早期に進路先を決定する生徒が多かった。その一方で、最後まで第一志望を貫き、一般選抜で難関校に合格する生徒も多く見られた。リモートでの面接実施など、試験方 | 基礎学力・授業の質の一層の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ICT を活用した効果的な授業設計を編成する。 対話的で主体的な学びを推進する。 個別最適化された学習支援の充実を図る。 探究活動の充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 個別最適化された学習支援は模索中ではあるが、ICT 活用の授業設計を中心に、概ね目標を達成した。 |
| | 個に対応した指導の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 多様な学習スタイルへの対応を促進する。 自己調整学習の支援を強化する。 多様な進路選択を支援する教育環境の整備を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> 遠隔授業の実施により学習アクセシビリティを高めることができた。 自己調整学習の支援強化については、振り返りのルーチン化に取り組んだ。 外部リソースとの接続により、多様な進路選択を支援することができた。 |
| | 進路意識・進路実績の一層の向上 | <ul style="list-style-type: none"> 本校における進路指針の徹底を図り、職員一丸となって生徒の進路意識の高揚および進路目標の達成につなげる。 各年次の進路行事の意義を十分に理解させ、自己の在り | <ul style="list-style-type: none"> 本校の進路指針に則って生徒の進路意識を高めることができた。 |

別紙様式 2 (高)

| | | | |
|--|------------------------|---|--|
| <p>法も多様化しているため、正確な情報収集と、きめ細かな対応が必要である。</p> <p>運動部、文化部ともに加入率が徐々に高まっており、県大会・関東大会・全国大会で活躍した。生徒の主体的活動を促すホームルーム、委員会活動、学校行事についてより一層の内容の充実が必要である。</p> <p>生徒は概ね落ち着いた学校生活を送っているが、若干、制服の着こなしが整っていなかったり、「ながらスマホ」などスマホの適切な利用に欠けたりしている生徒が見うけられる。また、若干名、自律心に欠ける生徒が見られ、自己指導能力の育成のための支援が必要である。本校が目指す生徒支援について、全職員の共通理解を図り進めていきたい。</p> <p>情報発信量は増加したが、まだ最新のデータが外部に的確かつ速やかに伝えられていないことがある。学校評議員制度の活用やホームページ、フェイスブック、アンケート(Google Forms)などの広報広聴活動を工夫する。</p> <p>働き方改革については、教員の意識は高まってきているが、超過勤務時間が月 45 時間を超える教員が月平均約 15 人いる。ICT の活用、業務の見直しとともに、さらに意識を高めるため、声かけを積極的にしながら超過勤務時間の削減に努めたい。</p> | | <p>方生き方について考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒との個別面談を充実させ、進路目標を明確化させる。 ・新課程入試に対応するため、大学説明会や入試分析会等に積極的に参加し正確な情報収集を行い、進路支援に活用する。 ・国公立大学・難関私立大学の合格者数増を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・年次の進路行事をとおして、生徒各自の在り方生き方への理解を深めた。 ・個別面談を充実させ、早期に進路目標を明確化させることができた。 ・Web による分析等を活用し、最新の進路情報を収集・集約できた。 |
| | <p>特別活動・部活動の一層の活性化</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への積極的参加を促し、ホームルーム・生徒会・委員会の活動で主体的に取り組み、社会に貢献できる人材、グローバル社会で活躍できる人材を育成する。 ・部活動においては、限られた時間で工夫した指導を行い、県大会以上の大会に出場できる部活や生徒数を増やす。 ・学校行事後に感想をまとめ、キャリアパスポート等を利用することにより、学びを蓄積するとともに振り返りを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や部活動に主体的かつ積極的に取り組めるよう、ボトムアップの機会を多く設けて支援することができた。 ・多くの部活動が、県外大会出場を果たすことができた。 ・HR 等において学校行事を振り返り、生徒自身による検証を進めることができた。 |
| | <p>自己指導能力の育成</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から生徒と接する機会を多くもち、生徒が教員と相談しやすい関係を構築するとともに生徒理解に努め、すべての教育活動をとおして生徒の観察等を行うことで、生徒の変化を敏感に察知し、適宜、適切な支援を講じる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から生徒が相談しやすい関係を構築し、生徒観察に努めたことで、適切な支援・指導を講じることができた。 |
| | <p>学校評価の充実</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の内容や評価方法・評価対象等を検討する。 ・学校評議員制度などとおして家庭・地域社会の本校への要望や期待を把握し、生徒の探究活動と連携しながら新しいイメージを発信していく。 ・ホームページやアンケート等の広報広聴活動について、ICT を駆使してさらに工夫し、充実させ、学校を活性化させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の内容については今後の課題である。評価方法については Google Forms, Classroom, Classi 等の活用が定着した。 ・生徒による小規模学校説明会を神栖市で実施するなど魅力を積極的に発信することができた。 |
| | <p>働き方改革</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・業務の目的と目標を明らかにし、効果的な教育活動を行 | <ul style="list-style-type: none"> ・月 45 時間以上の超過勤務 |

別紙様式 2 (高)

| | | う。業務の精選も行い、スクラップを積極的に推進する。 ・ICT活用等を推進し、事務作業の効率化や教材の共有化を進める。 ・教職員一人一人が自身の働き方についての意識を高め、仕事と私事ともに大切にしながら、生き生きと職務にあたるよう努める。 | | 者は4月～2月平均9人と昨年度より少なくなった。次年度も引き続き業務の見直しを行っていく。 |
|-----------------------------|-----------------------------|---|----|---|
| | 授業改善 | ・生徒による授業評価アンケートにおける「先生はICTや板書、資料などを効果的に活用する等、教え方を工夫している。」の質問項目で、校内の平均値を3.6以上にするため、校内授業参観や教科内研修を活性化させる。 | | ・授業評価アンケート結果において、校内の平均点は3.6となった。 ・校内授業参観等はさらに工夫することを目指す。 |
| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 |
| 国語 | ・学習課題の明確化と基礎学力の定着 | ・シラバス・ポートフォリオを活用した効果的な授業展開の実現 | A | A ・ICT活用のさらなる推進 ・ペア・グループ活動の促進 ・教科内研修をとおした授業改善のためのスキルの共有 ・共通テスト対策等、実践的な指導の充実 ・学習段階に応じた論理的思考力の育成 |
| | | ・小テストを活用した基本的事項の確認と定着 | B | |
| | | ・長期休業等を利用した、目的別課外の実施による個別最適な学習の実現 | A | |
| | | ・指導力等の向上を目指した教科内研修会や相互の授業見学の実施 | B | |
| | ・読解力の養成 | ・文章の考察力や分析力を養成する授業展開の実現 | A | |
| | | ・多様な教材を活用した学習による、国語への関心や学習に対する主体性の育成 | A | |
| | | ・読解に必要な知識(評論用語や古典文法など)の定着を目指した、効果的な副教材の活用 | A | |
| | ・表現指導の充実 | ・文章を要約したり、意見をまとめたりする活動を通じた、表現力や思考力を深める授業の充実 | B | |
| | | ・3年間を見とおした小論文の指導の充実 | B | |
| ・読書感想文コンクール等への参加を通じた、表現力の向上 | | A | | |
| ・授業改善 | ・教科内研修、授業の相互見学を活用した授業スキルの向上 | B | | |
| 地理歴史公民 | ・ICTを活用した学習指導の研究 | ・社会的な事象等について調べまとめる技能の育成を図り、学びの質の向上に努める。 | B | |
| | ・基礎的内容の理解の徹底と授業方法の研究 | ・1・2年次では「授業第一主義」のもと、学習態度を涵養し、基礎的知識の確実な習得を図り、思考力・判断力・表現力の育成に努める。 | A | |
| | | ・3年次では「授業第一主義」のもと、課外授業・後期時間割・学校設定科目をとおして、個の進路に応じた学力向上に努める。 | A | |

別紙様式 2 (高)

| | | | | | |
|---------------------------------|----------------------------|--|---|---|---|
| | | ・小テストを実施して知識の定着を図り、生徒の理解力を把握しながら授業を計画する。 | B | A | かけによる学習支援 |
| | | ・科目の特性に応じた教材の創意工夫に努め、「分かりやすい授業」の展開に努める。 | A | | |
| | | ・教員研修講座等の受講や定期考査等の作問方法の工夫をとおり、共通テストに向けての対策・指導方法の研究を行う。 | A | | |
| | | ・進路実現を図るため、担当者間による模擬試験結果の分析を行う。 | A | | |
| | ・現代の社会への関心の高揚 | ・テーマを定めた主題学習を展開し、現代の社会への興味関心を高めさせる。 | A | | |
| | ・授業改善 | ・教科内研修、授業の相互見学を活用した授業スキルの向上 | B | | |
| 数学 | ・きめ細かな授業の展開 | ・少人数授業や習熟度別授業の実施により、目の行き届いた丁寧な指導を実践し、基礎基本事項の確実な定着を図る。 | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・継続的な教科内研修をとおりした授業改善のためのスキルの共有や ICT を活用した効果的な授業のさらなる研究 ・理解が不十分な生徒に対する補講課外の実施 ・少人数・習熟度別授業での効果的かつ効率的な授業展開の工夫 ・共通テストや2次試験対策などの研究・研鑽 |
| | ・家庭学習習慣の確立と応用力の養成 | ・1、2年次：毎日の復習としての課題に教科書傍用問題集を積極的に取り入れ、基礎の定着を図るとともに、必要に応じて応用問題にも慣れさせる。 | A | | |
| | | ・3年次：文系理系それぞれの課題を自ら解くことにより、家庭学習時間の増加と学習内容の定着を図る。 | A | | |
| | ・習熟度、進路希望に応じた指導 | ・2年次：数学ⅡBにおいて、文系：教科書の基本事項、理系：教科書～参考書（黄チャート）の内容の定着を目標とし、習熟度に応じた指導を徹底する。 | A | | |
| | | ・3年次：5・6組を2分割し、受験型(ⅡBC・Ⅲ)に対応した授業を展開する。 | A | | |
| | ・意欲ある生徒への指導 | ・1年次：長期休業中の課外授業において難度のやや高い問題を精選・提供し、意欲ある生徒の数学力の伸長を図る。 | A | | |
| | | ・2年次：長期休業中の課外授業において習熟度に応じて基礎の確認から応用問題までを精選・提供し、意欲ある生徒の数学力の伸長を図る。上記に加えて、希望者に対して放課後の課外授業を行い、実力養成を図る。 | A | | |
| | | ・3年次理系の数学ⅢC 選択者に対しては、課外授業などをとおりして実力養成を図る。 | A | | |
| | | ・放課後等に質問に訪れる生徒には担当年次の枠を越えて随時対応する。数学研究室をその環境として整備する。 | A | | |
| | ・指導技術の向上・指導方法の工夫をとおりした授業改善 | ・担当年次の枠を越えて、日頃より各種問題の解法についての研究や意見交換、授業参観を行い、指導力、指導方法の向上を図り、授業改善に努める。 | B | | |
| ・電子黒板などの ICT 機器のより効果的な活用法を研究する。 | | A | | | |

別紙様式 2 (高)

| | | | | | |
|----------------|--|---|---|---|--|
| 理科 | ・学力の向上 | ・生徒に必要な学力を身につけさせるために、授業を工夫し、課題解決の機会を充実させる。 | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・ICT を活用した授業展開や課題の配付及び改修方法の工夫 ・長期休業中の効果的な課外授業の実施方法の検討 ・限られた時間の中で生徒実験や演示実験を実施する工夫 ・実験室の整理と適切な薬品管理 ・効果的な共通テスト演習の実施 |
| | ・設備、備品の充実 | ・各科目で内容を精選し、充実した実験・観察を実施する。 | A | | |
| | | ・実験・観察による学習によって、体験させて興味関心をもたせ、学習意欲を持続させる。 | A | | |
| | | ・設備備品を徐々に整備し、学習環境を良いものにしていく。 | B | | |
| ・指導力の向上 | ・共通テストに対応できる授業のあり方を研究する。 | A | | | |
| 保健体育 | ・体力の向上 | ・新体力テストの総合評価を伸ばす。 | B | A | <ul style="list-style-type: none"> ・ICT の効果的な活用のさらなる推進 ・男女共習の推進 ・自主的・自発的活動を充実させる指導方法の工夫 ・社会性等を形成する意識を育む指導方法の工夫 |
| | | ・生徒の運動時間を確保し、自ら体力を高める学習の工夫を行う。 | A | | |
| | ・選択授業の充実 | ・選択授業をとおして運動の楽しさを実感させ、自主的・自発的に活動できる能力を養う。 | A | | |
| | ・規範意識の遵守 | ・授業をとおして、ルールやマナー及び時間や安全を守る態度を養う。 | A | | |
| ・副教材を利用した授業の工夫 | ・保健ノート、パワーポイント、DVDなどを活用し、わかりやすい授業の展開を図る。 | A | | | |
| 芸術 | ・主体的表現活動 | ・芸術に関する各科目の特質について理解し、意図に基づいて表現するための技能を身につけるようにする。 | A | B | <ul style="list-style-type: none"> ・音楽・美術・書道の三科目で連携し発表会や作品展示を積極的に実施する。 ・ICT の効果的な活用 ・実技を伴う教科での遠隔授業への工夫 |
| | | ・創造的な表現を工夫し、芸術の良さや美しさを深く味わったりすることが出来るようにする。 | A | | |
| | | ・ICT を活用した授業の展開を図り、授業への積極的な参加を促す。 | B | | |
| | | ・年間を通じ音楽会・展覧会等に足を運ばせ、鑑賞に関する資質・能力を育成する。 | B | | |
| | ・芸術を愛好する心の育成 | ・生涯にわたり芸術を愛好する心情を育み、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。 | A | | |
| | | ・上級進学をめざす者へ補習等を実施し、個々の力を伸ばす。 | A | A | |

別紙様式2 (高)

| | | | | | |
|----|-------------------------------|---|---|---|---|
| | | ・個人指導の充実を図り、添削や助言等を示す。 | A | | |
| | ・授業改善 | ・音楽・美術・書道の三科目で連携し「芸術発表会」を実施する。 | A | A | |
| 英語 | ・シラバスを活用した、具体的目標を意識させる学習習慣の確立 | ・シラバスを活用し、主体的に生徒が学習できるようにする。 | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・少人数体制による個に応じた丁寧な指導 ・共通テスト対策を含めた実践的な指導 ・主体的に生徒が学習できるペア・グループ活動の促進 ・学習段階に応じた論理的思考力の育成 ・家庭学習時間の増加と習慣付け ・検定試験受験の促進 |
| | | ・シラバスの内容をさらに充実させ、生徒にとっては利用しやすく、教員にとっては指導目標が共有できるものとする。 | A | | |
| | | ・意欲的に英語学習ができるよう、英検等の外部試験やALTの活用を促進する。 | B | | |
| | | ・確認テスト等を適宜実施し、学習の習慣化を一層図る。 | A | | |
| | ・生徒の多様な学力に応じた指導の充実 | ・1年次：少人数単位での授業展開の利点を生かし、予習・授業・復習のサイクルの確立を図るとともに、4技能を総合的に伸ばせるよう、活動と指導法の創意工夫に努める。 | A | | |
| | | ・2年次：各科目で課題を工夫し家庭学習へとつなげ、自立学習できるよう促す。「話す」「書く」のアウトプット活動を行い適切に評価することで、4技能を総合的に伸ばすことに努める。 | A | | |
| | | ・3年次：家庭学習と授業を接続し、科目の特性に応じて、予習・授業・復習のサイクルをまわすことで、主体的な学習スタイルを確立する。実践的な問題も適宜取り扱い、英語力の多角的な向上に努める。 | A | | |
| | | ・成績下位者へのフォローを補習などで確実にを行う。 | A | | |
| | ・生徒の希望進路に応じた様々な指導と実践 | ・進路実現のための英語力向上を目的とした指導に加え、個々の学習到達度を確認するための単元テスト、パフォーマンステスト等を実施する。 | A | | |
| | | ・英検、模擬試験等を有効に活用しながら、総合的な英語力の育成を意識した指導を実践する。 | A | | |
| | | ・生徒個々人の目標を意識した指導、レベルに応じた問題演習を行う。 | A | | |
| | | ・教科内で情報交換を深め指導目標を共有し、3年間を見とおした指導が展開できるよう協力することで、各人が個々の指導力の向上を目指す。 | A | | |
| | | ・授業における効果的な指導法・評価方法について、研修会参加等を通じて研鑽・研究を進める。 | A | | |
| | ・授業改善 | ・生徒による授業評価アンケートの平均値向上に向けて、積極的な授業見学やオンライン研修など、教科内での研修をより一層充実させる。 | A | | |
| | ・英語4技能の向上 | ・全ての年次において、ICTを適切に活用しながら、「聴く・話す・読む・書 | A | | |

別紙様式2 (高)

| | | | | | |
|------------|---|---|---|---|--|
| | | く」の4技能包括型の活動を積極的に取り入れた授業を実践する。 ・3年次では特に論理的に考え、社会的な事柄について英語で表現する能力を伸ばす。 | A | | |
| 家庭 | ・生活を主体的に営むために必要な基礎的知識・技能の習得 | ・生活実態に応じた実践的・体験的な活動を多く取り入れる。 | A | A | ・実生活に応じた体験的な活動を取り入れた授業展開 ・個に応じた支援 ・実生活での課題を見だし、解決を図る学習の実施 |
| | | ・個に応じた支援の実施。 | A | | |
| | ・生活を主体的に創造しようとする実践的態度の育成 | ・ICT機器を活用し、生活に関する知識や技術を習得できるようにする。 | B | | |
| | | ・実生活の中から課題を見だし、解決を図る学習をとおして、生涯を見とおして生活課題を解決する力を養う。 | A | | |
| 情報 | ・情報活用能力の育成 | ・表計算ソフトや文書作成ソフトを用いて、様々なデータを扱う上で最小限心得ておくべき資質を身につけさせる。 | A | A | ・理論と実践の往還を意識した授業展開 |
| | ・情報セキュリティ意識の向上 | ・情報活用に関する興味関心をもたせるだけでなく、情報化の負の部分に配慮し、情報モラルやセキュリティに対する意識を涵養する。 | A | | |
| 教務 | ・授業時数の確保 | ・授業時間を確保するとともに、カセットの実施時間も含め可能な限り曜日毎の授業時数の均等化を図る。 | A | A | ・日課変更に対応した曜日等の授業時数の均等化および計画的、効率的な授業推進、授業時間の確保 ・日課や教育課程の継続的な検証および改善・年間を見とおした上での行事計画の作成、見直し ・統合型校務支援システムを活用した成績処理や要録等の各種帳票類の円滑な作成方法の周知 |
| | ・教師の学習指導および生徒の学習の取り組み方の研究と改善 | ・「授業評価アンケート」を実施・分析し、教師の学習指導法や生徒の学習の取り組み方の調整を行い、教師、生徒双方のより意欲的な指導および取り組みに繋げる。 | A | A | |
| | | ・「教科内授業研究」(年3回)や「生徒による授業評価」(授業アンケート)を実施することで実態に即した効果的な学習指導方法の研究と改善に繋げる。 | B | | |
| | ・進学重視型単位制の充実 | ・教育課程が本校生の進路実現に繋がる時代や地域のニーズに対応したものとなっているかを検証し、一層のカリキュラム・マネジメントの推進を図る。 | B | A | |
| | | ・少人数授業・習熟度別授業におけるグループ編製の工夫などをとおして、より効果的な授業展開の方策を研究し、生徒の学力向上を図る。 | A | | |
| | ・行事等の円滑な運営 | ・各分掌との連絡を密にし、学校行事の日程や日課の調整を行い、学校運営を円滑にする。また、行事ごとに改善点を確認し、次年度への運営に反映させる。 | A | A | |
| ・成績等の円滑な処理 | ・統合型校務支援システムを活用した成績処理や要録等の各種帳票類の円滑な作成に寄与するような校内システムを構築する。 | A | A | | |

別紙様式 2 (高)

| | | | | | |
|--|---|--|---|---|--|
| 総務企画 | ・本校の魅力や生徒の活動を積極的に発信し、附属中を含めた「銚一ブランド」の確立 | ・スクールガイド、ポスターの作成 | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・災害時（台風、降雪等）の情報資産の管理、運用 ・全職員が安心、安全に情報資産を利用できる環境の整備 ・学検、入選前の広報活動の活発化（ポスター、スクールガイド、学校説明会 & mini 文化部発表会、中学校での進路説明会、Facebook、ホームページ等） ・土曜日実施を試みた学校公開における教務部との管理運営 ・総合的な探究の時間における持続可能なプログラムの確立、授業での生徒支援方法の教員研修の実施 |
| | | ・プロモーションビデオの活用 | A | | |
| | | ・中学校、学習塾訪問の実施 | A | | |
| | | ・進学フェアへの参加 | A | | |
| | | ・オープンキャンパス（中学生対象）の企画、運営 | A | | |
| | | ・学校公式ウェブページの内容の充実 | A | | |
| | ・本校に対する外部の声の収集 | ・学校評価アンケートの実施、集計、分析 | A | A | |
| | ・持続可能な情報環境の維持と情報資産の有効利用 | ・事務室と連携し、校内の各セグメントの効率的な運用と管理を目指す。 | A | A | |
| | | ・情報端末機器（PC・タブレット）の保守・管理に努める。 | A | | |
| | | ・緊急情報メールシステムの有効な運用に努める。 | A | | |
| | | ・校務支援システムの管理・運営を行い、有効な運用に努める。 | A | | |
| | | ・情報セキュリティの実施手順に沿って、情報機器等の扱いに関する内規等を整備する。 | A | | |
| ・茨城県教育情報ネットワークの教員用アカウントならびに生徒用アカウントの管理・運用に努める。 | | A | | | |
| ・総合的な探究の時間、ほこいちプロジェクトの円滑な運用 | ・プログラムを充実させ、生徒たちの取り組みを大学受験に対応できるレベルまで高める。 | A | A | | |
| | ・株式会社 IRODORI の「ワガママ Lab」を導入し統一のプログラムを実施することで、持続可能なプログラムの確立を目指す。 | A | | | |
| 生徒支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・安心、安全な学校の構築 ・スマートフォンの適切な利用 ・基本的な生活習慣の確立及び規範意識の高揚（自己指導能力の育成） ・各年次学年、各部署等と連携し、事件事故等の未然防止と早期発見 | ○生活関係 | | A | <ul style="list-style-type: none"> ・安心、安全な生活環の整備 ・ながらスマホ、スマホの不適切な利用に対する指導強化 ・自己指導能力の育成 ・教員間の報告、連絡、相談の徹底 ・事件、事故の未然防止 |
| | | ・各年次、各学年で共通理解を図り、服装頭髪指導を実施する。 | A | | |
| | | ・集会、ホームルーム等で、ルールやマナー・モラルについての意識の啓発を図る。 | A | | |
| | | ・登校指導を実施し、制服の正しい着こなしや挨拶の励行を図る。 | A | | |
| | | ・さわやかマナーアップ運動をとおして、マナーについての意識の啓発を図る。 | A | | |
| | | ・遅刻カードを活用し、遅刻者の減少及び時間厳守の意識を育てる。 | A | | |
| | | ・貴重品の自己管理及び移動時の教室施錠を徹底させる。 | A | | |

別紙様式 2 (高)

| | | | | | |
|---------|----------------------------------|---|---|---|---|
| | 初期対応 | ・インターネット安心安全利用講座を実施し、スマートフォンの適切な利用について指導する。 | B | 及び初期対応 ・スクールバスの円滑、安全な運行のサポート ・交通事故未然防止の指導 | |
| | | ・いじめのない学校づくりに努める。 | B | | |
| | | ・ハートフルアンケートを実施し、いじめや問題行動の早期発見・初期対応に努める。 | A | | |
| | | ・薬物乱用防止教室の実施。 | A | | |
| | | ・生徒理解、生徒尊重に努める。 | A | | |
| | | ・報告、連絡、相談を徹底し、初期対応に努める。 | A | | |
| | ・スクールバスの円滑、安全な運行の確保 ・交通事故未然防止 | ○交通関係 | | | A |
| | | ・スクールバスの安全な運行を確保するため、登下校指導を実施する。 | A | | |
| | | ・運行計画の策定。 | A | | |
| | | ・原付バイク通学者に対する定期的な交通指導の実施。 | A | | |
| | | ・原付バイク実技講習会の実施。 | A | | |
| | | ・自転車点検及び交通安全指導の実施。 | A | | |
| | | ・交通安全講話の実施。 | A | | |
| 教育相談 | ・支援が必要な生徒の早期発見 | ・『相談室だより』などによる生徒・保護者への広報 | A | A ・アンケートの実施と分析・検討 ・スクールカウンセラー、校内関係者との連携の援助 | |
| | | ・「教育相談アンケート」の実施と、その結果の分析・検討 | A | | |
| | | ・会議等での情報収集 | A | | |
| | | ・生徒情報の整理と関係者によるミーティング | A | | |
| | ・適切な援助活動の実施 | ・援助が必要な生徒、保護者との面談 | A | | |
| | | ・関係者間の円滑な連携への援助 | A | | |
| | | ・スクールカウンセラーとの連絡、調整 | A | | |
| | | ・特別な支援を要する生徒についての情報交換及びケース会議 | A | | |
| ・教育相談研修 | ・校内研修会（各部との連携等）の計画と実施 | A | | | |
| 進路指導 | ・体系的な進路指導の実施 | ・定期的な部会招集による計画的な進路行事の運営・調整 | A | A ・各年次および他の分掌との綿密な連携による進路行事の運営 ・模試分析における各年次および各教科との情報共有 | |
| | | ・1年次：進路講演会・職業講話等による進路適性の把握と職業観の育成 | A | | |
| | | ・2年次：大学出張講義・卒業生と語る会等による進路知識を獲得 | A | | |
| | | ・3年次：進路検討会議等による進学希望先の共有・指導 面接・小論文指導等の充実 | A | | |
| | ・進路情報の収集と提供 | ・各年次および教科における模試結果分析の促進 | A | | |

別紙様式 2 (高)

| | | | | | |
|--------------|---|--|---|---|--|
| | | ・指導上の課題の明確化と職員間の情報共有強化 | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・放課後・長期休業中の課外授業の計画的実施および効果の検証 ・進路支援に関する附属中学校と高校の連携強化 |
| | | ・生徒面談等による生徒の動向把握および適切な情報提供の実施 | A | | |
| | | ・高大接続改革・入試変更点等に関する情報収集および分析 | A | | |
| | | ・『進路資料』『進路便り』の発行による、生徒・保護者への適切な情報提供 | A | | |
| | ・学力向上 | ・平日の家庭学習時間「学年数+1時間」・休日の家庭学習時間「学年数+2時間」を基準とした家庭学習の習慣化促進 | A | A | |
| | | ・放課後・長期休業中の課外等の特別講習の充実 | B | | |
| | | ・長期休業中に実施される教育研修等への参加奨励 | A | | |
| ・学習環境の整備 | ・平日および土曜日の尚志館開放による、生徒の自学自習の習慣化促進 | A | A | | |
| ・附属中学校との連携 | ・附属中学校との連携による、進学指導の検討促進 | B | B | | |
| 特別活動 | ・学校行事の改善 | ・各種学校行事の内容の一つひとつを丁寧に検証し、本校として実現可能な魅力ある行事の実践に努める。また、すべての行事において、生徒が主体的に企画・運営に関われるように支援する。また、キャリアパスポートを利用し、学びの蓄積および振り返りを行う。 | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員や生徒会役員を中心とした生徒による主体的な山王祭やクラスマッチの運営に対する支援 ・各行事に臨む身だしなみについての共通理解 ・学校行事であるが、不参加生徒の多かった野球応援の位置付け ・部活動加入率の上昇(R6年度79%、R7年度78%)と部活動数の見直し ・ホームページやSNSをとおした各部活動の校内外での活動および成果報告 ・HR活動を促すための教室以外での施設利用希 |
| | ・生徒会活動の活性化 | ・生徒会役員が生徒代表としての自覚をもち、各種行事の開催にあたってリーダーシップを発揮し、他の生徒を啓発し牽引できる力を育てる。また、附属中との連携を図る。 | A | | |
| | ・委員会活動の活性化 | ・各種委員会の活動内容を見直すとともに、学校行事や日々の学校生活の中に各種委員の活動の場を積極的に設け、活用する。 | B | | |
| | ・部活動の充実 | ・部・同好会への加入率80%を達成できるように、部・同好会紹介等の充実と本校伝統の「文武不岐」により啓発する。 | A | | |
| | | ・それぞれの部・同好会の特性を活かし、各種大会・発表の場への積極的な参加を促すことで、活動範囲を広げられるよう支援する。 | A | | |
| | | ・日々の活動や生活の中に規範意識をもつとともに、互いに協力し合う精神を育てる。また、活動場所の整理整頓を常に心がけ、活動環境を整備美化する。 | A | | |
| ・ホームルーム活動の充実 | ・学校行事や進路指導に伴うホームルーム活動だけでなく、レクリエーション等、各ホームルームならではの独創性のある活動計画を立て、それらの活動をとおして協調性や団結心を養う。 | A | | | |

別紙様式 2 (高)

| | | | | | | |
|---|------------------------------|--|--------------------------------------|---|--|---|
| | | | | | 望調査と調整 | |
| 保健安全 | ・保健衛生的習慣の確立 | ・健康診断の実施等により、健康状態の把握と的確な保健指導を行う。 | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・保健相談、保健指導および保健室運営の充実 ・清掃活動および環境整備の充実 ・安全防災対策の工夫と充実 ・各種報告事項の的確な遂行 | |
| | | ・適切な応急処置と保健相談活動を実施する。 | A | | | |
| | | ・『保健室関係資料』を周知し、保健室運営を円滑にする。 | A | | | |
| | ・清掃活動の徹底 | ・清掃活動を励行し、校舎内外の美化・環境問題への意識を高める。清掃用具の充実を図る。 | A | | | |
| | ・防災意識の高揚 | ・『危機管理マニュアル』を更新し、防災避難訓練を遂行する。 | A | | | |
| | ・環境衛生の整備 | ・学校薬剤師の助言のもと、環境衛生検査を定期的実施する。 | A | | | |
| | ・学校欠席者情報システムへの報告 | ・各年次・各学年、各担任の協力を得て記録、報告をする。 | A | | | |
| ・日本スポーツ振興センター保険の活用 | ・部活動、各年次・各学年と連絡を密にして有効に活用する。 | A | | | | |
| 図書館 | ・資料の整備充実と情報化の推進 | ・図書の購入希望調査を行い利用者のニーズに応えとともに、バランスの取れた蔵書構成を目指す。 | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・図書廃棄の推進および図書資料の更新 ・書架整理の推進 ・レファレンスサービスの充実 ・委員会活動を通じた広報活動の工夫 | |
| | | ・規定に則り、図書の合理的廃棄作業を進め、図書資料の更新に努める。 | A | | | |
| | | ・ICT機器を活用して情報化の推進を図り、授業や探究活動を支援する。 | A | | | |
| | ・図書館利用の促進 | ・読書感想文・感想画コンクールへの応募等を、教科と連携して行う。 | A | | | |
| | | ・読書関連のイベントを企画し、読書への関心を高める。 | B | | | |
| | ・委員会活動の活性化 | ・広報活動や行事・研修等を通じて、図書委員の主体性を養う。 | A | | | |
| ・生徒図書委員研修会（県東・中央）に参加し、各高校との交流により委員会活動の活性化を図る。 | | A | | | | |
| 渉外 | ・学校と家庭の交流の充実 | ・学校行事への保護者の参加率を上げ、本校に対しての理解を深めてもらう。 | B | A | <ul style="list-style-type: none"> ・さわやかマナーアップの実施 ・文化祭グッズ製作 ・保護者、生徒会、教員との連携 | |
| | | ・状況に応じた事業の遂行 | ・状況に応じた対応ができるよう、関係者や関係部署との綿密な連携。 | | | A |
| | | ・生徒指導委員会の活性化 | ・生徒指導委員会のさらなる活性化を図るための支援の充実 | | | A |
| 1年次 | ・基礎学力の向上 | ・義務教育段階の学習内容の定着度にあわせ、目標の設定と振り返りをとおして 基礎学力の向上と自宅での学習習慣の確立を目指す。 | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に明るく元気に過ごす。 ・成績不振者への対応 ・成績優秀者への対応 | |
| | | ・自己管理能力の形成 | ・基本的な生活習慣を土台としたマナーやモラルを大切にすることを涵養し、人 | | | A |

別紙様式 2 (高)

| | | | | | |
|---|--|---|---|---|--|
| | | 間関係形成・社会形成に欠かせない自己管理・自己抑制能力を形成する。 | | A | ・進路や人間関係の悩みへの対応 |
| | ・自己理解・社会理解の促進 | ・総合的な探究の時間を中心とした課題解決型学習をとおして、社会と連携・協働しながら取り組みを充実させることで、自己理解・社会理解を促すとともに、生涯にわたるよりよいキャリア形成の基盤を作る。 | A | | |
| | ・自己肯定感の発揚 | ・部活動や特別活動への積極的参加をとおして、自己肯定感につながる充実した学校生活を目指す。 | A | | |
| 2年次 | ・基本的な生活習慣の確立 | ・基本的な生活習慣を確立させるとともに、スマートフォンやタブレットの使い方について、生徒自身が有効な活用方法を判断できるよう指導する。 | A | A | ・全体として落ち着いた学校生活をおくっており、昨年度に比べ生活面での注意を受けることが減っている一方で、心に悩みを抱え、休みがちになっている生徒への対応 ・高い進路目標を掲げ前向きに学習に臨む生徒が増えている一方で、授業内容の定着度が低い生徒への対応 |
| | ・進路指導の充実と進路目標の決定 | ・大学見学会、大学出張講義、卒業生と語る会、オープンキャンパスへの参加をとおし、進路知識を拡大し自身の将来像を具体化する。 | A | | |
| | ・進路実現に向けた学習習慣の定着と学力の向上 | ・知識の理解・定着を促すため、予習・復習を柱とした学習習慣の確立と手帳等を利用した自己管理、計画を立てて実行する力の伸長を図る。 | A | | |
| | | ・高い進路目標へ挑戦する意識の高揚を図るため、授業を第一とし、Classi や模試の復習に主体的・継続的に取り組ませる。 | A | | |
| | | ・課題超過の時期が出ないように、年次内で情報共有を図る。 | B | | |
| | ・特別活動への積極的参加と総合的な探究の時間をとおした社会の当事者意識の涵養 | ・多面的な生徒理解に努め、部活動や学業、探究活動における情報交換を密にし、個々の生徒が力を発揮して活動できるよう支援する。 | A | | |
| ・探究活動や修学旅行をとおして社会問題への興味関心を深化させるとともに、社会とのつながりを意識させ、生涯にわたるキャリア形成の基盤を作る。 | | A | | | |
| 3年次 | ・進路実現に向けた学力の向上 | ・面談や日常的な関わりによって生徒の進路希望を把握し、支援を適切に行う。 | A | A | ・進路実現に向けた主体的な取り組みを促進するとともに、悩みを抱えていたり、欠席が多くなっていたりする生徒への継続的な支援によって、無事卒業へと向かわせること |
| | | ・課外授業や個に応じた学習支援を行う。 | A | | |
| | | ・授業第一とした上で、模試の復習にも主体的・継続的に取り組ませることで、高い進路目標へ挑戦する意識の高揚を図る。 | A | | |
| | | ・生徒の小さな違和感を見逃さないよう平常時の生徒理解に努め、年次職員間の情報交換を密に行う。 | A | | |
| | ・自己管理能力の向上 | ・身なりや態度についての日常的な支援をとおして、マナーやモラルを大切にすることを涵養するとともに、社会の形成者として欠かせない自己管理能力を向上させる。 | B | | |
| | ・情報を取捨選択する能力を育み、権利と責任を有する成人として生きるにふ | B | | | |

別紙様式2 (高)

| | | | | | |
|--|--|-------------------|--|--|--|
| | | さわしい社会観や人生観を醸成する。 | | | |
|--|--|-------------------|--|--|--|

※ 評価基準 A：大変良くできた B：良くできた C：普通 D：やや不十分 E：不十分